TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵　目をさましなさい

コリントの信徒への手紙一 15 章 29-34 節

2025 年 9 月 20 日 & 21 日
余沢　武　牧師

I.　はじめに

こんにちは。IBP(インパクト・ビルディング・プラン)の更新から 2 ヶ月が経ちました。神は TBC の50%の日本人と50%の外国人を用いて、ここ日本、そして世界に福音を届けるという特別な使命を与えてくださいました。この地は、その使命を果たすために神が備えてくださった重要な拠点です。

当初 29 名だった会員数は、現在 700 名を超えるまでに成長しました。今、私たちは日本と世界に福音を届け続けるために、現世代と次世代のための新しく、より広い礼拝堂を必要としています。

こちらが完成イメージです。皆さまの寛大なご献金に心より感謝いたします。ここで進捗のご報告をさせていただきます。目標金額はこちらです。第 1 月目には、目標の 50%に到達しました。第 2 月目にはあと 1 週間ありますが、達成率は同じく 50%です。このペースが続くと、1 年ではなく 2 年かかる見込みとなります。

まだ始まったばかりです。目標額に届くよう、そして来年の夏に建築を始められるよう、引き続き主に祈りましょう。この IBP のためにご献金くださる際は、

IBP 専用の封筒をご使用ください。
米国での税控除をご希望の方は、TBC Life や教会ウェブサイトの該当ページをご確認いただくか、教会事務所までお気軽にお問い合わせください。
詳細につきましては、パンフレット、そこに記載されている動画リンク、または教会のウェブサイトをご覧ください。

コリント1では、コリントの教会の中にクリスチャンの復活を信じていない人々がいたことがわかります。パウロは彼らにこう語りました。神のご計画は、まずキリストの復活が「初穂」となり、その後に私たちの復活が続くというものです。そして最後には、サタンとそのすべての偽り、罪、そして死が完全に滅ぼされるのです。

最終的なゴールは、すべての被造物、人類を含むすべてが完全に神に服することです。神が「すべてのうちにおいてすべて」となられ、すべてが神の栄光とご性質を映し出すようになります。本日ご一緒に、「復活」という信仰が、私たちの生き方を決定するのかを見ていきましょう。

II.目をさましなさい

(1)なぜ、危険なのか

コリント1　15:29 には、こう記されています。「そうでなければ、死者のために洗礼(バプテスマ)を受ける人たちは、何をしているのでしょうか。死者が決して復活しないのなら、なぜ死者のために洗礼(バプテスマ)など受けるのですか。」

先週、私たちは皆アダムに倣って、神ではなく自分の判断を信じ従ってしまったーこれを罪と呼ぶということを学びました。アダムにあって、すべての人は死に至ります。しかし今、私たちはイエスにあって、すべての人は命を得るのです。

この歩みは、私たちがイエスの死を自らの罪の罰として受け入れ、主を信頼し、従うことを決心したときに始まりました。イエスは、私たちのその決心をバプテスマによって表すように命じられ、私たちはバプテスマを受けました。バプテスマとは、新しい命と復活の象徴です。

しかしパウロは問います。もし復活がないのなら、「死者のために洗礼(バプテスマ)を受ける人たちは、何をしているのでしょうか。」 この箇所は、コリント1の中でも最も解釈が難しい部分の一つとされており、聖書学者たちはこれまでにこの「死者のためのバプテスマ」に 40 通りもの解釈を提案してきました。

①解釈のひとつは、パウロが「バプテスマを受ける前に亡くなったクリスチャンのために、代理でバプテスマを受けるような行為」を指しているというものです。
②他の解釈では、パウロが言及しているのは、クリスチャンの愛する人に死をきっかけにイエスを信じて洗礼を受け、いつの日か天国で再会するために受けるというものです。
③初期のギリシャ教父たちの多くは、パウロが言及しているのは通常のバプテスマであり、それは「自分が罪に死んでいることを認めた人々が受けるバプテスマ」のことだと理解していました。
「死者」とは、やがて神によって変えられる私たち自身の罪に満ちた肉体を指していると理解できます。

個人的には、初期のギリシャ教父たちの解釈に共感しています。

どの解釈に同意するかは別として、パウロが語っているのは、もし復活が存在しないのなら、バプテスマは意味を持たないということです。

30-32節「また、なぜ私たちはいつも危険を冒しているのですか。きょうだいたち、私たちの主キリスト・イエスにあって私が持つ、あなたがたに対する誇りにかけて言えば、私は日々死んでいます。エフェソで獣と闘ったことがただ人間的なことにすぎないのなら、私に何の益になるでしょう。死者が復活しないとしたら、『食べたり飲んだりしよう。どうせ明日は死ぬのだから』ということになります。」

「エフェソで獣と闘ったことがただ人間的なことにすぎないのなら」とは、比喩的な表現であり、復活の希望を持たないただの人間が、もしエフェソで命を脅かすような大きな危険に直面したら？　ここに何の良いことがあるのでしょうか？と問いかけています。
もし福音が復活と新しい命をもたらさないのであれば、人が受ける「バプテスマ」は意味を失い、パウロが福音を宣べ伝えるために費やしたすべての努力も、無意味なものとなってしまいます。

それはまるで、欠陥のある「防弾チョッキ」を何枚も持っている兵士のようなものです。彼はそのうちの一つを身につけ、激しい銃撃の中で他の人々にも届けようとします。しかし、それは無駄な努力です。彼は誰も救えないばかりか、自分の命さえ失ってしまいます。そんな状況なら、家にいて、食べて飲んで楽しんでいた方がましでしょう。

私が好きなことのひとつに、みかん狩りなどの果物狩りがあります。果物狩りに行くと、たいてい網のような袋を渡されて、その場で好きなだけ食べることができ、袋に入る分だけ持ち帰ることもできます。

その場で食べられる量には限りがあるので、私は網の袋にできるだけ見栄えの良い果物を詰めることに集中します。そして袋がいっぱいになり、さあ帰ろうというときに、係の人が「すみません、持ち帰りはもうできなくなりました。」と言ったら、私たちはこう思うでしょう。「えっ！？それなら、そこにいる間にもっと食べることに集中すればよかった！」

これこそが、パウロが語っていることです。もし、私たちが待ち望んでいる将来の復活が偽りで、実際には起こらないのだとしたら、私たちは「食べて飲んで楽しもう」と言って、今の人生を楽しむだけで終わるべきなのです。

このように、もし私たちが人生の本当の満たしと喜びは、神への服従の中にあると信じているなら：
私たちは、他者を愛し、惜しみなく自分を与えることに心を向けるようになる―イエスのように。
神の備えに信頼しながら、神がどれほど良いお方であるかを証しする生き方を選ぶようになる。

この満たしと喜びは、復活によって天において完全に体験されるものですが、私たちは今日、信仰によってその一端を味わい始めることができます。だからこそ、私たちは今この日を、その生き方に集中して歩みたいのです。

しかし、もしそれが偽りだと考えるなら―復活はなく、神への服従の中に満たしや喜びも存在しないのだとしたら：この地上で満たしと喜びを得ることに集中するようになる。自分の必要を自分で満たそうとする。周囲に「自分はこんなにすごい」と示そうとするようになる。

(2)目をさましなさい

33-34節「思い違いをしてはいけません。『悪いつきあいは、善い習慣を損なう』のです。正気になって、正しい生活を送りなさい。罪を犯してはなりません。神について無知な人々がいるからです。私がこう言うのは、あなたがたを恥じ入らせるためです。」

パウロはこう警告しています。「惑わされてはいけません」クリスチャンであっても、復活などないかのように語り、振る舞う人たちがいるのです　本当の問題は、彼らが「神について無知」であるということを理解することです。

彼らは知らないのです。神の救いのご計画が、私たちを完全な神への服従へと導くことにあるということを。それは、神のように他者を愛するためだけに生きること、神の備えに信頼しながら、神の善を世に示すことです。だからこそ、パウロは言います。クリスチャンであれ、そうでない人であれ、彼らの無知の影響を受けてはならないと。

たとえば、望んでいた仕事の担当や昇給、昇進、評価が得られなかったときに、クリスチャンでも「怒り」を覚える人がいます。

彼らは知らないのです。本当の満たしと喜びは、神の御心に従うことによって与えられるということを。
地上では自分の願いや欲求ではなく、他者を愛することに心を向けること。
金銭ではなく、神の備えに信頼して生きること。
自分の素晴らしさを示すのではなく、神の善と恵みを世に表すこと。

こうして、彼らはまったく逆のことをしてしまいました。愛することの代わりに怒りを抱き、神が与えようとしておられる永遠の満たしと喜びを犠牲にしてしまったのです。そして、自分の欲望やお金、評価にしがみつくことで、満たしと喜びが得られると信じ込んでいるのです。

本当の問題は、彼らが神を知らないということです。まず神の国とその義を求めながら、他者を愛することに心を向けるなら、神がすべての必要を満たしてくださるということを彼らは知らないのです。そのため、彼らは怒りを抱えたまま成長せず、神を第一に求めないがゆえに、神が備えた大切なものを受け取れないでいるのです。

これは、教会の奉仕の場―教えること、賛美、他の働きでも起こり得ることです。

奉仕とは、神の愛をもって人を愛し、神の備えに信頼しながら、神の善を現す場所です。しかし、望んでいた配置や支援、評価が得られないとき、私たちは怒りを覚えてしまうことがあります。それは、奉仕における本当の満たしと喜びは、次の 3 つのような神の方法に従うことによって与えられることを忘れるときに起こります。

① 自分の願いではなく、他者を愛することに心を向けること。
② 他のものではなく、神の備えに信頼すること。
③ 自分の良さではなく、神の善を現すために行うこと―たとえそれが拙いものであっても大丈夫です。

結果として、私たちは願っていた姿とはまったく逆の者になってしまいます。
愛する代わりに怒りを抱え、神が与えようとしておられる永遠の満たしと喜びを犠牲にし、自分の欲望や偶像、そして人からの評価にしがみついてしまうのです。それらから満たしと喜びが得られると思い込んでいるのです。

本当の問題は、私たちは神について無知であるということです。まず神の国とその義を求め、他者を愛することに心を向けるなら、神が本当にすべての必要を満たしてくださるということを私たちは忘れてしまったのです。

その結果、私たちは怒りを抱えたまま、霊的に成長することができません。神を第一に求めないがゆえに、すべてのことを逃してしまうのです。

パウロはこう語っています。「目を覚まして、罪をやめなさい。」言い換えれば、「目を覚ましなさい！」ということです。

自分自身に問いかけてみましょう。

① 私たちは本当に、「復活」とは何かを理解しているでしょうか？
② 私たちを神への完全な服従へと導くためのもの―神のように他者を愛し、神の備えに信頼することが心に満足と喜びを与えることを、本当に知っているでしょうか？
③ なぜ、復活などが無いかのように生きているのでしょうか？
④ 物や金銭、評価されることなどの欲求に満足を求めるのでしょうか？

パウロはこう言います。「あなたがたを恥じ入らせるためです。」

クリスチャンの皆さん。さあ、「復活のいのち」に生き始めましょう。そうすれば、この世は私たちを通して、神の愛と誠実さ、そして善なるご性質を見ることができるのです。

まだイエス様を受け入れていない方も、イエス様を信じることによって神の愛と誠実さ、そして善に満ちた「復活のいのち」を今日から歩み始めることができます。どうか、今心からこう告白してみてください。「イエス様、私は信じます。」

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://t-b-c.us/sg3925jp

★クラス 201
霊的に成長するために
9月21日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了し、メンバーの方

★クラス 210
スモールグループについて知ろう
10月4日(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 301
私の賜物ってなんだろう？
10月12日(土)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 201 まで修了した、TBCメンバーの方

全クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

奉仕者募集中！

急募！

日本語訳レイアウト＆印刷
（女性 3 名募集）

英語のスキルは必要ありません。
・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
今見ているこの紙を作成＆印刷してもらいます。
ひな形があるので翻訳された原稿をコピーして貼り付け整え、印刷するだけの簡単な作業です。

*スキル：MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org